

■ 訳者紹介

*以下、翻訳担当章

藤井敦史 (ふじい・あつし)

日本語版刊行にあたって、第1章、第2章、第3章

立教大学コミュニティ福祉学部教授

阪神淡路大震災後の神戸の仮設住宅でコミュニティ形成に取り組むNPO・NGOのフィールド・ワークを出発点に、コミュニティ・ビジネスを含む社会的企業の国際比較研究を一貫して行ってきた。近年は、社会的連帯経済における連帯関係そのものを紡ぎ出すコミュニティ開発について研究している。東北大学経済学研究科助教授を経て2006年4月より現職。主要業績は、原田晃樹・藤井敦史・松井真理子 [2010] 『NPO再構築への道—パートナーシップを支える仕組み』勁草書房、藤井敦史・原田晃樹・大高研道編 [2013] 『闘う社会的企業—コミュニティ・エンパワーメントの担い手』勁草書房等。また、社会的企業研究会会長、NPO法人アジア太平洋資料センター (PARC) 理事を務めており、ビデオ『支えあって生きる—社会的企業が紡ぐ連帯経済』(<http://www.parc-jp.org/video/index.html>) の制作にも関わっている。

大川恵子 (おおかわ・けいこ)

第5章

ロンドン タワーハムレット区シニア戦略政策マネジャー

大阪府等を経て、現在タワーハムレット区においてストラテジストとしてビジネス分析、戦略・政策開発を担当。コミュニティと協働し政策立案・実施するコ・プロダクションの手法を用いる等コミュニティ開発にも貢献。他に、初代会長として女性職員の声を反映しより働きやすい職場環境を作ることを目指す同区女性職員ネットワークの設立・運営、エスニック・マイノリティ支援を行う英国のNGO、Race On The Agenda理事、共同住宅の財政運営委員として等コミュニティでの活動も担う。ロンドン大学においてガーナの地方分権とコミュニティ開発について博士課程の研究、近年は、英国と日本の地方自治体の女性政策や情報政策等の比較研究を実施。『地方自治職員研修』において2017年から2019年までコラム「当世英国自治体職員事情」を連載。

坂無 淳 (さかなし・じゅん)

第4章、第6章、第7章

福岡県立大学人間社会学部講師

社会学、ジェンダー研究を専門としており、大学など高等教育におけるジェンダー平等について、研究を行ってきた。他にも団地住民による共同保育の事例研究を行うなど、コミュニティと子育てに関心を持っている。現在は、自治体のジェンダー政策の調査など、ジェンダーを関心の中心として研究テーマを広げている。山形大学男女共同参画推進室、立教大学コミュニティ福祉学部を経て2017年4月より現職。主な業績として、坂無淳 [2020] 「女性の労働者協同組合による移民女性のエンパワーメントと連帯—ロンドン・タワーハムレット区の事例から」『社会分析』47:

43-59、坂無淳 [2014]『都市における保育の共同—埼玉県新座団地の共同保育の事例から』『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80等がある。

走井洋一 (はしりい・よういち)

序章、第9章、謝辞

東京家政大学家政学部教授

19世紀末から20世紀初頭のドイツに生きたW.ディルタイの思想をベースとして、人間の社会性形成の問題について教育哲学的・教育人間学的研究を続けてきたが、理論的研究のみに依拠することの限界に直面し、2007年頃から若者自立塾、地域若者サポートステーション等の就労支援現場をフィールドとする調査を継続的に行ってきた。現在では、社会性、協同性がいかにして生まれ、持続するのに焦点を当てて研究している。弘前学院大学准教授を経て2010年度に東京家政大学に着任。現在は一般社団法人協同総合研究所の常任理事も務める。主要業績は、紺野祐・走井洋一ほか [2011]『教育の現在』学術出版会、笹田博通編 [2015]『教育的思考の歩み』ミネルヴァ書房、など。

松井真理子 (まつい・まりこ)

第8章

四日市大学総合政策学部教授、NPO法人市民社会研究所代表理事

1992年から2年半の自治体国際化協会ロンドン事務所勤務を契機に、市民社会のコミュニティ形成機能、政策提言機能、及びこれを有効に機能させる中間支援組織について、実践・研究両面において携わってきた。2001年から四日市大学に所属し、2004年に立ち上げた市民社会研究所を基盤に、みえNPOネットワークセンター、東海市民社会ネットワーク、ささえあいのまち創造基金など、地域のNPO/NGOによるネットワーク型の中間支援組織の設立と運営に携わる。個人を対象とする市民教育、就労困難な若者を地域ぐるみで支える活動と、これを促進するための社会的企業の立ち上げや運営も行っている。主要業績は原田晃樹・藤井敦史・松井真理子 [2010]『NPO再構築への道—パートナーシップを支える仕組み』勁草書房など。

■著者のプロフィール



マシュー・ボルトンは、コミュニティ・オーガナイズングを、社会を変え、民主主義を刷新するものとして開拓してきた。15年間のオーガナイザーとしての経験を経て、現在、シティズンズUKのディレクターを務めており、数万の活発な市民の全国的な連携を作り出し、コミュニティ・リーダーたちを訓練してきた。とりわけ、マシューは生活賃金キャンペーンに先導的なオーガナイザーとして取り組み、現在では6,000近くの生活賃金認定事業所が生まれ、低所得の労働者に対して10億ポンドを超える成果を上げた。それ以外にも、近隣地域での多くの取り組みと同時に、給料担保金融業者の問題、真に安価な住宅の提供、難民の処遇改善といった課題に対して、政府の政策変更を促すキャンペーンのオーガナイズングに関わり、それらを成功に導いてきた。

マシューは、オーガナイズングとキャンペーンに関する書籍として国際的に有名になった本書『社会はこうやって変える——コミュニティ・オーガナイズング入門』の著者であり、市民社会組織の幹部たちが、組織のメンバーのパワーを解き放ち、よりラディカルなミッションを実現できる方法についてコーチングを行っている。また、アフォーダブル・ハウジングを提供するロンドン・コミュニティ・ランド・トラストの理事でもある。

彼は、妻と2人の子どもたちと一緒に南ロンドンに住んでおり、武術館の中国拳法では、黒帯の有段者であり、潜水指導員協会の資格を持つスキューバ・ダイバーでもある。そして、いくら負けようが、プレミア・リーグのトッテナム・ホットスパーの大ファンである。

(シティズンズUKのHPより)